

## この号について

『国際交流基金日本語教育論集』には、当基金の日本語教育事業に携わる日本語教育専門員、海外派遣日本語専門家、職員等により執筆された論文および報告を掲載し、さまざまな国・地域における日本語教育に関する論考や実践、調査研究等を日本語教育関係者の皆様にご紹介しています。

今回、第20号には計17本の投稿があり、厳正な審査の結果、教材開発論文2本、報告6本の、計8本が採用されました。(本号より名称を『国際交流基金日本語教育紀要』から『国際交流基金日本語教育論集』へ変更しましたが投稿規程や構成に大きな変更はありません)

今号の特徴としては、国際交流基金の国内拠点である、浦和の日本語国際センターおよび大阪の関西国際センターの取り組みを紹介する論文・報告が中心となっている点です。日本国内において両拠点の担う事業内容は、教師研修、教材開発、WEBサイト運営などさまざまですが、今回の論集において、こうした事業について具体的な報告がなされているのは、日本語教育関係者の皆様に、両拠点の取り組みを広く知っていただく機会になるでしょう。

一方で、海外の取り組みについては、今号ではケルン日本文化会館（ドイツ）の報告1本にとどまりました。採用された論文・報告は、匿名による厳正な査読審査によって選ばれたものであるため、今号の国内と海外の偏りは、偶然であって意図的なものではありません。しかし、世界の日本語教育を扱う本論集の趣旨を考えると、今後は海外からの投稿が増え、掲載される論文・報告も多くなることが期待されます。

『国際交流基金日本語教育論集』事務局